

延岡市長

読谷山 洋司 様

令和2年度

政策提言書

1. 南延岡駅のバリアフリー化
2. 愛宕山の防犯灯の整備

令和2年12月22日

延岡市議会

議長 松田 和己

1. 南延岡駅のバリアフリー化

南延岡駅については、昭和53年4月に現在の駅舎が建設されているが、駅舎が2階にある橋上駅であり、ホームに行くまでには、駅の入口から駅舎まで23段、駅舎から跨線橋まで12段の階段を上り、また、跨線橋からホームまで35段の階段を下りなければならない構造となっている。そのため、駅で乗降されるビジネスマン等が大きな荷物を抱えて階段を上り下りする姿が見受けられる他、高齢の方や体の不自由な方、障がいのある方などから階段の上り下りができないとの声が寄せられている。

整備にあたっては、バリアフリー法の基本方針において、駅の平均利用者数が1日当たり3,000人以上であることが条件の1つとなっているが、この条件を満たさなくても、署名活動を行う等、地域を挙げて必要性を訴えてきたことにより、整備が進められている駅もある。

また、事業期間が令和6年度までとされている県道稲葉崎平原線の拡幅に併せ、南延岡駅の利用者数の増加も見込まれ、バリアフリー化は喫緊の課題である。

そこで、本市においても、南延岡駅のバリアフリー化の早期実現を目指し、特に次の事項について重点的な取り組みを行い、国、県及びJR九州に対し、更に積極的な要望活動を展開していただくよう提言する。

記

- (1) 南延岡駅バリアフリー化促進期成会と連携し、南延岡駅利用者の増加に向けた施策を展開するなど、官民一丸となってバリアフリー化に向けた機運醸成を図ること。
- (2) 駅舎建替を含め、市として整備手法を研究するとともに、応分の負担による整備の可能性等、JR側とより踏み込んだ協議を行うこと。なお、整備手法については、パブリックコメントを実施し、広く市民の意見を聴くこと。
- (3) 財源確保に向けた国、県への要望活動を強化すること。

2. 愛宕山の防犯灯の整備

愛宕山は、市民の憩いの場として親しまれている他、これまで、「日本夜景遺産」、「夜景100選」、「美しい日本の歩きたくなる道五百選」に選定されており、本年10月には、「日本百名月」に認定登録されている。また、かつては、笠沙山、笠沙の岬と呼ばれ、ニギノミコとコノハナサクヤヒメが巡り合った出逢いの聖地として、観光客が訪れる本市の観光地の1つである。

しかし、展望台の駐車場に至るまでの道路は、照明が少なく、木々が覆い被さっている箇所もあり、特に夜間は暗く危ない道路になっている。

愛宕山の防犯灯を整備することは、健康増進のために夜間や早朝に散歩される市民の安全面に寄与することが期待される他、観光面においても有効な手段と考えられる。

また、樹木の伐採を行うことにより、太陽光を活用した防犯灯の設置や整備が可能となる箇所が増える他、防犯に有益な環境整備や景観の向上等に繋がると考えられることから、次の事項について特段の措置を講じていただくよう提言する。

記

- (1) 防犯灯が整備可能な場所を選定し、その場所に合った設置手法を決定し、早期整備に努めること。
- (2) 防犯灯の整備と併せた樹木の伐採を実施し、防犯と景観の向上を図ること。